

Ⅱ. 調査の結果

第1章 日本大学学生の基本特性

1.性別

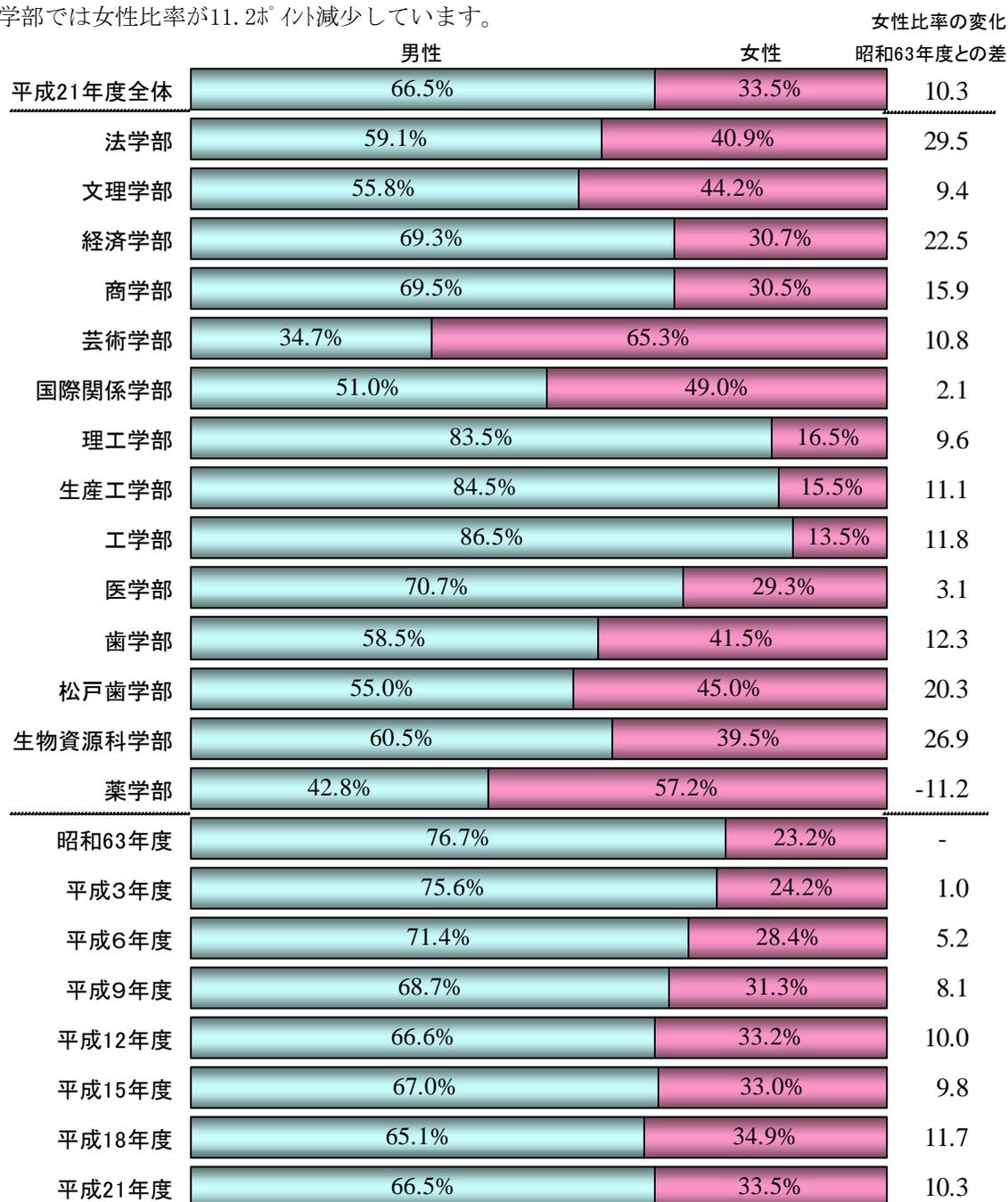
学部によって男女の比率に大きな差。

女子学生比率は、法学部・生物資源科学部・経済学部・松戸歯学部で増加傾向が著しい。

本大学の14学部全体（昼間部のみ）の女子学生比率は33.5%でした。実際の女子学生比率は28.4%（平成21年5月現在の学部昼間在籍者）ですから、女子学生の方が調査協力率がやや高かったこととなりますが、分析上支障のない範囲の偏りだと考えられます。

学部別に見ると男女比は大きく異なり、女子学生比率は芸術学部で最も高く65.3%、工学部で最も低く13.5%となっています。

第1回調査が行われた昭和63年（21年前）と比べると女性比率は10.3ポイント増加しています。法学部・経済学部・松戸歯学部・生物資源科学部では20ポイント以上と増加が顕著に見られます。一方、薬学部では女性比率が11.2ポイント減少しています。



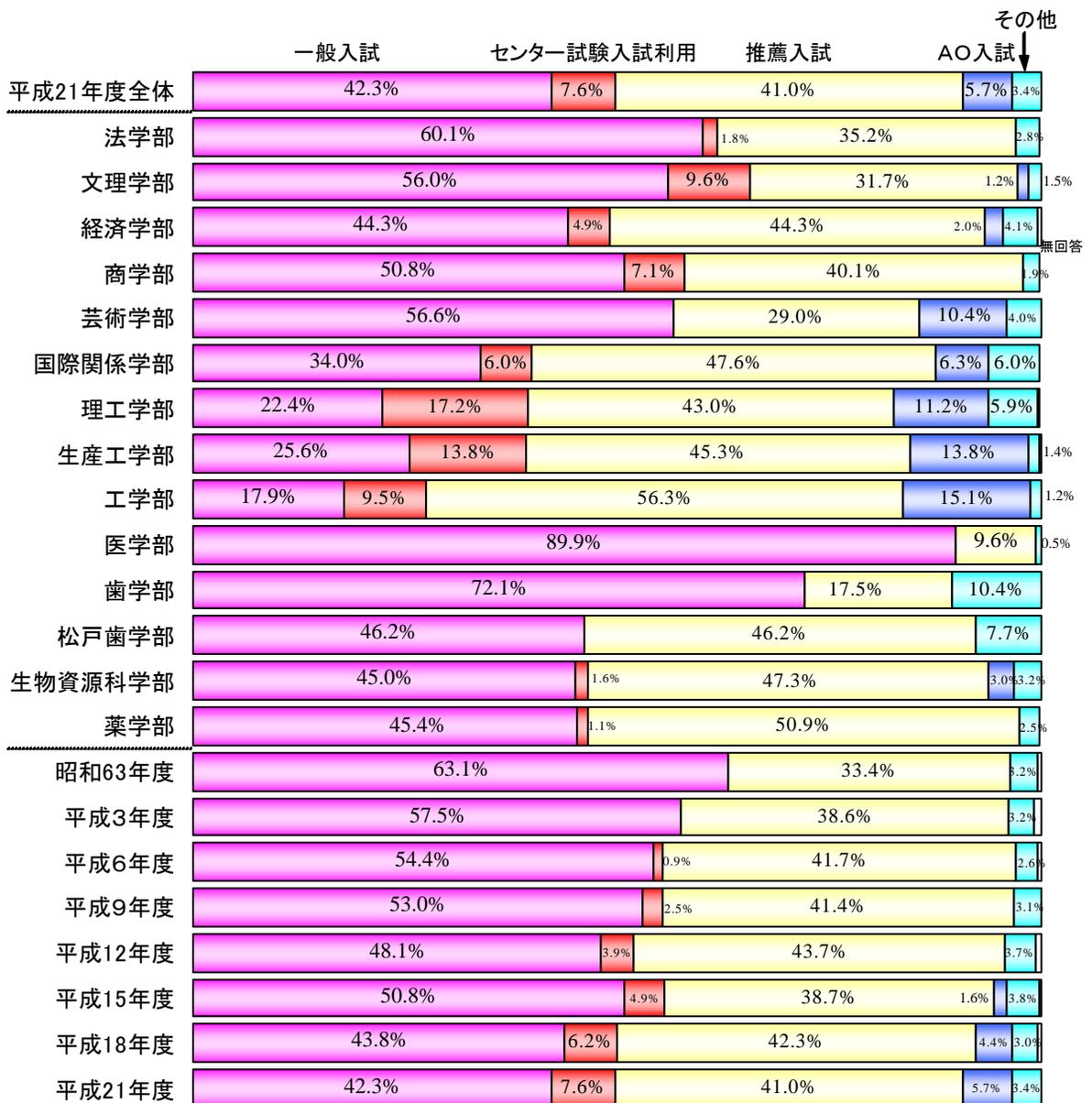
2.入学状況

一般入試と推薦入試による入学者がほぼ同率。学部により差異が大きい。
センター入試利用、AO入試が増加し、入学形態の多様化が進む。

本大学への入学状況を見ると、一般入試が42.3%、推薦入試が41.0%とほぼ同率となっています。平成4年度から採用されているセンター入試利用が7.6%、平成13年度から実施されているAO入試は5.7%となっています。

一般入試入学の比率は、医学部が89.9%で最も高く、次いで歯学部（72.1%）、法学部（60.1%）、芸術学部（56.6%）、文理学部（56.0%）の順となっています。推薦入試は、工学部と薬学部で過半数を占めています。学部により入学形態に大きな差がみられます。

経年変化を見ると、一般入試による入学者比率が減少傾向、センター試験利用とAO入試入学に増加傾向がみられ、入学形態の多様化が進んでいることがわかります。



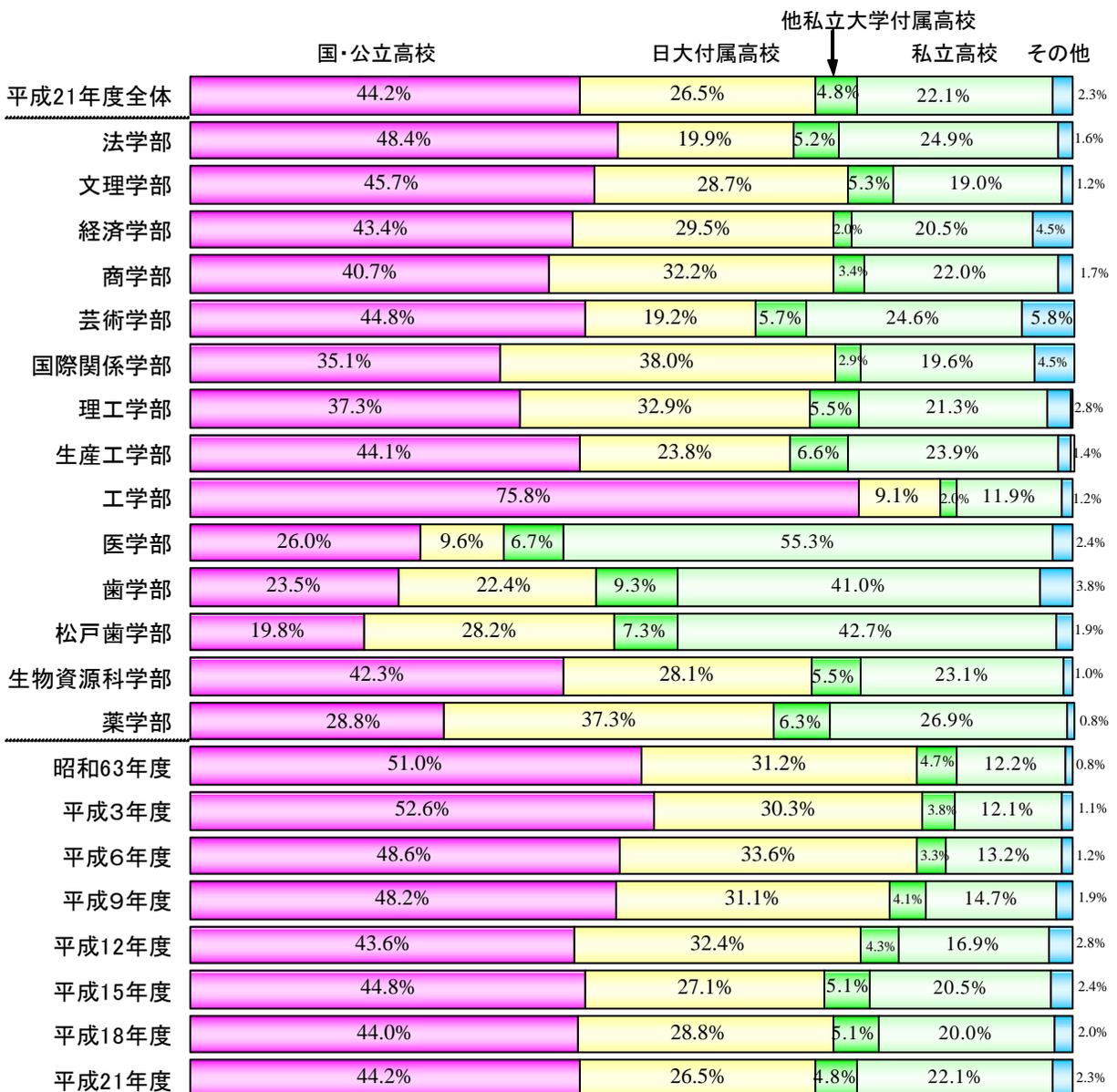
3.出身高校

国・公立出身が44.2%。次いで日大付属高校出身が26.5%、私立高校出身が22.1%。
工学部は国・公立出身がほぼ4分の3、医学部の過半数は私立高校出身。

本学学生の出身高校を見ると、国・公立が44.2%で最も高く、次いで日大付属高校（26.5%）、私立高校（22.1%）、他私立大学付属高校（4.8%）の順となっています。

工学部は国・公立高校出身が75.8%と4分の3を占めています。また、法学部もほぼ半数が国・公立高校出身となっています。一方、医学部では、私立高校（付属以外）出身が過半数を占めています。国際関係学部と薬学部は、日大付属出身が約4割となっています。

経年変化を見ると、国・公立高校出身は若干減少傾向がみられましたが、平成12年度からはほぼ横這いとなっています。増加傾向が続いていた私立高校出身は成18年度はわずかに減少となりましたが、本年度には再び増加に転じています。



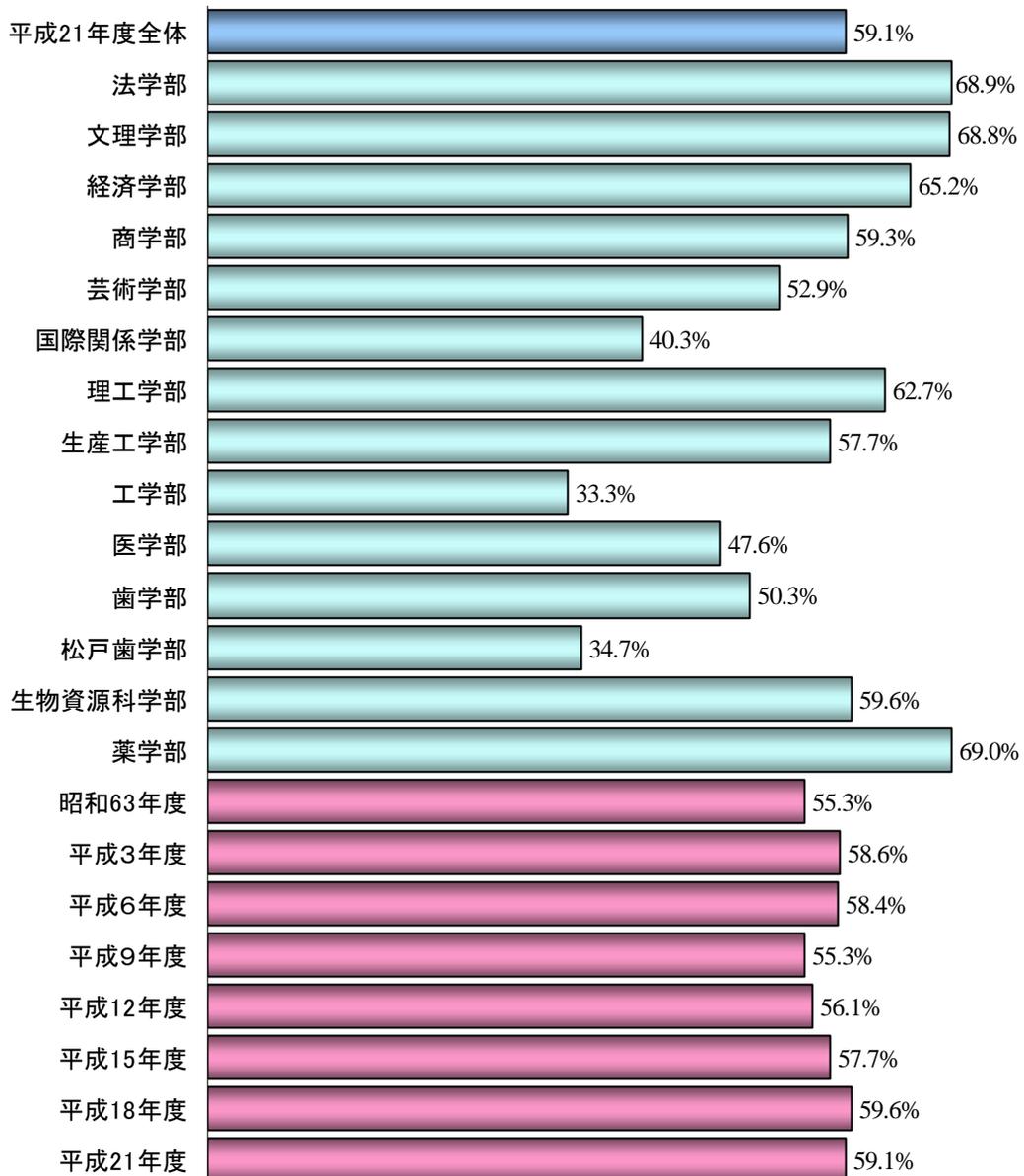
4. 自宅通学者比率

自宅通学者比率は59.1%。首都圏外・郊外に所在する学部では4割以下。
家庭の経済事情やキャンパスの移動などの要因により変動？

現在の住居形態についての回答を見ると、自宅が59.1%で最も比率が高く、次いでアパート・マンションが34.6%となっています。食事付きの下宿・貸間・学生ハイツは3.3%とごく少数です。自宅通学者に焦点をあてて見ると、薬学部・法学部・文理学部が約70%と高く、キャンパスが福島県のテクノポリス郡山にある工学部で33.3%、千葉県松戸市にある松戸歯学部で34.7%、静岡県三島市にある国際関係学部で40.3%と低くなっています。

自宅通学者比率の経年変化を見ると、平成9年度の55.3%から毎回増加傾向にありましたが、平成18年度に比べわずかに減少しています。平成21年度に全学生の授業が三崎町（千代田区）キャンパスに統合された法学部は、3年前の74.4%から5.5ポイント減少しています。子供を自宅通学させることによって生活費を抑えたいといった家庭の経済事情はあるものの、キャンパスの移動といった物理的要因なども重なった結果と解釈できるかもしれません。

自宅通学者比率



5.通学時間

通学時間の中央値は50.3分。薬学部の66.6分から工学部の11.9分まで学部により差。通学時間は、自宅通学率が高い学部ほど長く、相関関係が非常に強い。

通学時間は「15分以内」が21.1%、「16～30分」が13.2%で30分以内が34.3%、「31～60分」が23.9%で1時間以内が58.2%となっています。通学時間が1時間半を超える学生も2割います。本学学生の通学時間の中央値を求めると50.3分となります。

通学時間の中央値を見ると、学部によりバラつきが大きく、薬学部（66.6分）・文理学部（65.8分）・商学部（65.7分）では1時間を超えています。工学部では11.9分、国際関係学部では15.7分、松戸歯学部では17.0分、と短くなっています。比較的キャンパスに近いところに住んでいるアパート・マンション居住者に比べると自宅通学者はより遠方から通学していると考えられます。そこで、学部ごとに、平均通学時間と自宅通学率の関係を下図に示してみました。通学時間は自宅通学率が高い学部ほど長いという傾向が顕著に見られました。両者の相関係数は0.941と非常に高い数値となっています。

学部別、平均通学時間と自宅通学率の相関図

